

無題（村上仏山）

落花 紛紛 雪 紛紛

雪を 踏み 花を 蹴つて 伏兵 起こる

白昼 斬り 取る 大臣の 頭

噫嘻 時事 知るべき のみ

落花 紛紛 雪 紛紛

或いは 恐る 天下の 多事

此に 兆さん ことを

落花紛紛雪紛紛 踏雪蹴花伏兵起
白晝斬取大臣頭 噫嘻時事可知耳
落花紛紛雪紛紛 或恐天下多事兆於此

解説 桜田門外の変を詠った詩。

語釈 ※落花||散り落ちる桜の花。※紛紛||入り乱れてまとまりのないさま。※踏雪||雪を踏んで。※伏兵||敵の不意を襲つて撃つために、ひそかに隠れ伏している兵。水戸浪士。※蹴花||花(桜の花びら)を蹴る。※白昼||日中。まひる。ひるなか。※大臣||大老の井伊直弼。※時事||その時その時に起こったこと。できごと。※可知||推測することができる。※或恐||恐れる。 ※多事||事件や災難などが多く、世間の騒がしいこと。 ※兆||物事の起こる前ぶれ。

通釈 散り落ちる桜の花が乱れ、積もった雪が乱れ飛ぶ。雪を踏み、花びらを蹴散らして、隠れ伏していた水戸浪士達が起ち上がった。白昼堂々と井伊大老の首を取った。ああ、その時に出来事は知っておくべきことではあるが、大臣を撃ち取った後も、散り落ちる桜の花が乱れ、雪が乱れまとまり無く飛ぶ。もしや、これが天下の多事がここに兆しているのではなからうか。